

## スクミリンゴガイを利用した除草法の危険性について

スクミリンゴガイはイネを食害する害虫で、農林水産省・環境省の重点対策外来種（生態系被害防止外来種リスト）に掲載されている。1980年代に養殖目的で導入されたが、養殖業廃業などに伴い周辺へ逃亡して野生化した。広島県内では一部沿岸地域で発生が確認されている。

1990年代後半から本種を「稲守貝」や「神の貝」などと称し、発生地で採集して水田に放飼する除草法が九州各地などで普及してきた。

しかし、未発生地に放飼することで、水田から水路や隣接した水田に分散して生息域を拡大させ、被害面積が拡大して問題となっている。本種は野生生物であり、管理することは不可能である。

一旦定着すると、イネに被害が発生し、その被害を抑制するためには農薬散布が必要となります。広島県内で被害を増やさないためにも、未発生地域での放飼による除草法は行ってはならない。

リンク

ジャンボタニシ除草（農研機構）

<https://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/karc/applesnail/other/025030.html>